

1 目的

- ・ 年間指導計画に指導要領との関連を明記する
 - ⇒ 指導の根拠を明確にする。
 - ⇒ 単元の目標作成（や評価規準作成）の参考とする
- ・ 3つの柱に基づいた目標を記入する
 - ⇒ 個別の指導計画記入にも反映させる（使用する文言など）
 - ⇒ 次年度以降の担当者への引き継ぎ資料とする（免許外でも指導できるように）
- ・ Excel版に記入することで、学年ごと、月ごとにまとめやすくなり、一覧を作成しやすい
 - ⇒ 生徒に提示することで、学習の予定を知る。
 - ⇒ 教師にとっては、教科横断的な指導の機会を増やせる。

2 教科の方法 「その1」のフォルダを見る

- ・ 5月23日（金）までに、これまでの年計の書式（Word版）で作成しサーバ内のフォルダに提出する。
- ・ 本日（25日）は、Excel版に入力する
 - ア) その1 ⇒ 指導の記録 ⇒ 教科（Excelファイル）を開く。教科の目標が入っていることを確認する。（青の部分）
 - イ) 教科の第1段階の目標をプルダウンから選ぶ（緑の部分）
 - * 必要に応じ、2段階から選ぶことも可能
 - ウ) D列に単元名・題材名を入力する。
 - エ) E列に学習内容を入力する。

ポイント

- オ) 最初の単元・題材（行だと11, 12, 13）のFとGから、関連する指導要領の内容をプルダウンで選ぶ。
 - * 「関係あることすべてを選ぶ」というより、単元の目標になり得る項目から選択します。
 - ⇒ 何を指導するために、この単元・題材を設定しているのかで選択
- カ) それを参照しながら、三観点の目標（I列）を入力する。

学習指導要領から	国語の教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識・技能	(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	
思考・判断・表現	(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	
学びにむかう力・人間性	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。	

3年	目標	知識・技能	思考・判断・表現	学びにむかう力・人間性
		ア 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高めることができるようにする	ウ 言葉がもつよさを認識するとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う

時間	主な行事	単元名・題材名	学習内容	第1段階	第2段階	三観点の目標
4月	見学旅行					知
5月	現場実習Ⅰ					考
5月	マルシェ					学
9月	現場実習Ⅱ					
15月						考

- キ) 毎月、月末をめどに Excel 版に「指導の記録」として、今回のように必要な事柄を入力していく。
 加えて、**指導した時数も忘れずに入力する。**
- ク) 教科部会（または研究日）に「指導の記録」を持ち寄り、指導要領一覧表のチェックをする
 ⇒指導していない項目や、不必要な重複をチェックする。
 ⇒書式の変更が必要な項目についても、**確認をする。(教務に意見をあげる)**

*データの保存は、サーバで行う。(必要に応じ、個人のPCにもバックアップをとっておく)

3 作業学習教科の方法 「その2」のフォルダを見る

- ア) その2 ⇒指導の記録 (Excel ファイル) を開く。クラス、学科を
 イ) 年間指導計画に記入した目標を記入する (I列の345)
 ウ) 単元名・題材名 (F列)、学習内容 (G列) 三観点の目標 (J列) を入力する。
 エ) H列は「学科に特化した知識や技能」を記入する。
 ⇒その学科でしか使用しない道具や、機械、取り組みについて記入する

時間	進路流れ	主な行事	現場実習の評価表との関連 (重点的に指導する内容)	単元名・題材名	学習内容	単元の中で学習する 学科特有の知識や技能	三観点の目標
4月	衛生技術科基礎課程の指導	満足	対人)挨拶や返事、報告が元気づけできている。 対人)服装などの身だしなみが整っている。 業務度)決められた時間に行動できている。	オリエンテーション			知
9月		マルシェ					考
9月		職場見学					学
12月		現場実習					知
							考
							学

- オ) 色づけしている部分は、「現場実習の評価項目」です。
 この内容を、確実に作業学習の中で学習できるように、目標作成をしてください。
 (この部分は学年進行で変わっていきます。同じフォルダの参考資料1, 2を参照)

- カ) 毎月、月末をめどに Excel 版に「指導の記録」として、今回のように必要な事柄を入力していく。
***単元(題材)の終わり始まりで、指導者間で目標を確認しながら進めてください。**
 (教科部会など特別な場でチェックするのではなく、**作業学習に入っている指導者間で共通理解をもつための資料**として活用してください。)

【補足のページ】～時間のあるときにご覧いただければ

- ・ 4月18日（金）の職員会議では指導案作成時の参考資料として「評価規準の作り方」という資料を添付しました。それは『宮城県総合教育センターの授業づくりガイド』を参考にしています。
- ・ その『宮城県総合教育センターの授業づくりガイド』は、文科省からでている「学習評価参考資料」と、国立教育政策研究所からでている「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」を基に作られています。

『宮城県総合教育センターの授業づくりガイド』⇒⇒

[みやぎ授業づくりガイド | 知的障害教育における「育成を目指す資質・能力」を踏まえた学習指導と学習評価](#)

- * 小、中の特別支援学校を想定して作られています。
非常にわかりやすく、オススメです。

学習評価参考資料⇒⇒[特別支援学校高等部学習評価参考資料](#)

- * 別ページに小・中学部のものもあります。
わかりやすくは…ないです。でもこれが基本です。

国立教育政策研究所⇒⇒

[\(指導資料・事例集：国立教育政策研究所 National Institute for Educational Policy Research\)](#)

- * 小、中、高で、各教科で提示されています
自分の教科は一読してもいいかな、と思います。